

競馬の発展とその衰退に関する歴史の研究

A study of the history of development and decline of horse racing

1K09B097-5 佐藤祥州

指導教員 主査 石井昌幸 先生 副査 作野誠一 先生

第1章 はじめに

スポーツとしての競馬、そして賭博行為としての競馬の概要を説明。規模の大きさはもちろんのこと、日本国内で禁止されている賭博がなぜ合法化されているのかに関して述べてある。とくにその規模の大きさは顕著で、日本における他のメジャースポーツ、プロ野球やJリーグなどと比較しても遜色ない観客動員を誇っている。賭博に関する面は、その法的根拠に関して記述してある。日本国内において賭博行為そのものは原則禁止である。例外的に競馬をはじめ、いくつかの賭博行為が法の根拠を与えられている。この点は興味深く、例えば八百長行為は、他のスポーツにおいては、そのスポーツ内における制裁措置は下される。一方の競馬は八百長行為の禁止が法で厳格に規制されており、発覚すれば、刑法で罰せられることとなる。

第2章 競馬の歴史的背景

1862年に日本に近代競馬が誕生した。それから現代にいたるまでの歴史的推移が主に述べてある。ただ、日本古来の競馬も存在が確認されているので、そこから記述してある。戦時中の競馬の役割と、戦後における日本のなかでの競馬の比較を歴史的根拠に基づいて記述した。戦時中における施行目的は陸軍の要請、すなわち強靱な軍馬を生産していくという名目であり、それら名目のもと競馬は実施された。一方、戦後に入ると軍馬としての要請は解消された。新たな名目として畜産振興が掲げられた。さらには国庫の財源としての役割も期待された。これら、1945年を境に競馬の役割は大きく変化している。その点に関して触れている。

第3章 地方競馬の概要と歴史

本卒業研究、論文の中核をなす、地方競馬に関しての記述である。中央競馬とはことなる地方競馬独自の歴史、特徴、そして現状と役割に関して述べてある。地方ごとにデータをそろえ、その多様性についても触れてある。中央競馬が日本全体のいわば政策的要請のも施行されたのに対し、地方競馬は、日本において古

くからある「競馬(くらべうま)」を源流としている。日本の伝統文化としての側面を感じさせる地方競馬に関して記述してある。

第4章 地方競馬場・人口・レジャー指向年度別推移に関する資料

地方競馬衰退の考察を行っていく上で必要なデータを記載してある。まずどのような衰退をたどったかを、視覚的に明瞭にするために地方競馬場を、日本地図にプロットした。さらに、考察を行っていく上で必要であると判断した、人口、レジャー、世代動向に関するデータの記載も行っている。時代設定を戦後に限定し、日本の競馬新体制後に関する資料を掲載してある。第5章で分析・考察へとつなげる。

第5章 地方競馬衰退に関する考察

地方競馬衰退の要因を、人口とIT化と結論付けた。地方から都市への人口流入、情報化社会への突入を主な理由としている。人口の都市部への流入は、人口に関する統計データから明白であり、これによるマーケット縮小が主要因であると考察した。ただ、中央競馬も、その市場規模は縮小傾向にあり、賭博といえども、ITに対応できないと、競馬界全体の未来がないという論調で記述してある。

おわりに

賭博であり、スポーツである競馬。単にどういう経緯で現代にいたっているのかという疑問から研究がスタートした。研究過程において、地方競馬の数がかなりのスピードで減少していることに気づき、その要因を題材にしてみようと思ったのが本卒業研究の発端である。競馬でさえ、各時代の世相を色濃く映しているのだと感じた。今では娯楽としての要素が色濃い競馬であるが、現代の形態に至るまでには様々な変遷をたどった。法と組織の関係もあり、他のスポーツや娯楽と一線を画するものであるとよりいっそうの印象を受けた。